

11/27 (月) ~12/1 (金) の行事

報道発表資料の配付日時 11月27日 (月) 11時00分

発表項目	令和5年度「世界エイズデー」について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>WHOよりエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12月1日は「世界エイズデー」と定められています。このため当室においても、次のとおりエイズに関する普及啓発等の取り組みを実施します。</p> <p>(1) パネル展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催期間：令和5年11月27日 (月) から令和5年12月1日 (金) まで</li> <li>・場 所：宗谷総合振興局道民ギャラリー</li> <li>・内 容：HIV/エイズに係るパネル展示</li> </ul> <p>(2) その他の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内市町村へ啓発資材の送付</li> <li>・外部機関 (図書館、キタカラ、育英館大学) へ啓発資材の掲示</li> </ul> <p>(3) 定例の取り組み</p> <p>稚内保健所にて毎月1回、HIV検査を匿名・原則無料で実施。 詳しくは稚内保健所ホームページをご覧ください。(https://www.souya.pref.hokkaido.lg.jp/hk/hgc/kenkoushien/eizul.html)</p>		
参考	<p>【参考資料】</p> <p>別紙1 令和5年度「世界エイズデー」実施要綱 別紙2 令和5年度「世界エイズデー」広報ポスター 別紙3 公益財団法人エイズ予防財団リーフレット 別紙4 啓発用ポケットティッシュ 別紙5 北海道の現状と保健所の取り組み</p>		
報道 (取材) に当たってのお願い	地域住民に対し、広く周知のご協力よろしくお願いします。		
他のクラブとの関係	同時配付 (場所)	同時レク	
担当 (連絡先)	<p>宗谷総合振興局保健環境部保健行政室健康推進課 課長 角谷 里佳 TEL: 0162-33-3702 (内線: 3630) 健康支援係 野口 小晴、菊池 広也 TEL: 0162-33-3703 (内線: 3682、3684)</p>		

# (別紙1)

## 令和5年度「世界エイズデー」実施要綱

### 1 名 称

令和5年度「世界エイズデー」

### 2 趣 旨

WHO(世界保健機関)は、1988年に世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12月1日を“World AIDS Day”(世界エイズデー)と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱した。

1996年から、WHOに代わって、国連のエイズ対策の総合調整を行うこととなったUNAIDS(国連合同エイズ計画)もこの活動を継承しているところである。

我が国においてもUNAIDSが提唱する“World AIDS Day”に賛同し、その趣旨を踏まえ、12月1日を中心にエイズに関する正しい知識等についての啓発活動を推進し、エイズまん延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図る。

また、性感染症のり患とHIV/エイズとの関係が緊密であること等を鑑み、近年感染者数が増加している梅毒や、昨年海外で感染が拡大し、今年に入り国内の患者の報告数が増加しているエムボックスについても、検査の実施や普及啓発の推進を図ることとする。

### 3 主 題 (キャンペーンテーマ)

「あなたが変わればエイズのイメージが変わる。UPDATE HIV!」

趣旨等については、別紙「令和5年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマについて」を参照のこと。

### 4 期 日

令和5年12月1日

ただし、地域の実情等に応じ、12月1日を中心とした前後の日でも差し支えないものとする。

### 5 主 唱

厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団

### 6 実施方法

(1) 厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団

関係行政機関、エイズ関連NGO(非政府組織)等の関係団体、民間企業、報

道機関等の協力を得て、全国的な啓発活動の推進を図る。主として12月1日を中心に啓発事業を行うほか、年間を通じた普及啓発のためのキャンペーンを実施する。

## (2) 都道府県、保健所を設置する市及び特別区

関係機関、関係団体等との連携を密にし、それぞれの地域の実情に応じた広報計画、実施計画等に基づき、次の事項も参考にしながらHIV/エイズに関する正しい知識の啓発活動を展開する。

また、現在感染が拡大している梅毒やエムポックスなど関心度の高い感染症情報とも合わせて、特に梅毒は街頭での呼びかけや感染リスクの高い性産業従事者等への啓発活動等積極的な広報に努める。

なお、都道府県から警察に依頼があった場合、広報のために性風俗店営業者の事業者情報の提供や保健所職員等が個別の事業者を訪問する場合にトラブル防止の必要が認められればその活動の後方支援などを協力していただけるので、適宜相談していただくこと。

- ① 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画等の協力を得た広報活動の実施
- ② ポスター、パンフレット、リーフレット、ビデオ等の作成・配布等による啓発活動の実施
- ③ 研修会、講習会、講演会、シンポジウム、街頭キャンペーン等の実施
- ④ 学校、企業、地区組織等に対する呼びかけ及び協力
- ⑤ 一般住民のみならず、相談窓口職員、医療従事者、教育関係者等への啓発

## 7 普及啓発における留意点

### (1) 普及啓発の基本的考え方

後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（平成30年厚生労働省告示第9号）の趣旨を踏まえ、我が国に在住するすべての人々に対して、正しい知識の普及啓発の強化を図ること。普及啓発に当たっては、近年の発生動向を踏まえ、対象者の実情に応じて正確な情報と知識を分かりやすい内容と効果的な媒体により提供すること。

### (2) 人権の尊重

患者・感染者が尊厳をもって暮らせる社会づくりのためには、患者・感染者のみならず、その周囲の人々のHIV/エイズに関する理解が必要であり、就学・就労を始めとする社会参加を促進することが、患者等の個人の人権尊重及び福利の向上だけでなく、社会全体のHIV/エイズに関する偏見や差別の発生を未然に防止することになること。

また、患者・感染者が安心して医療を受けられる環境づくりを進めることが重要であり、エイズ診療に取り組む医療関係者へ支援を訴える必要があること。

(3) HIV治療の進歩と検査・早期治療の重要性

HIV治療の進歩に伴い、HIVに感染しても早期発見及び早期治療によって長期間、社会の一員として生活を営むことができるようになってきたこと。

検査・相談は無料・匿名で最寄りの保健所等で受けられることや医療機関でも受検ができることなど、検査・相談の利用の機会に関する情報提供に努め、検査を受けやすくするための特段の配慮が必要であること。

8 その他

広報の実施に当たっては、患者・感染者やその家族の社会的背景や人権に配慮すること。

(別紙2)

# HIVを予防しよう

何よりも大切な  
あなたと私のために



令和5年度世界エイズデーポスターコンクール「一般の部」最優秀賞作品

## 12月1日は世界エイズデー

エイズに関する電話相談 **0120-177-812**

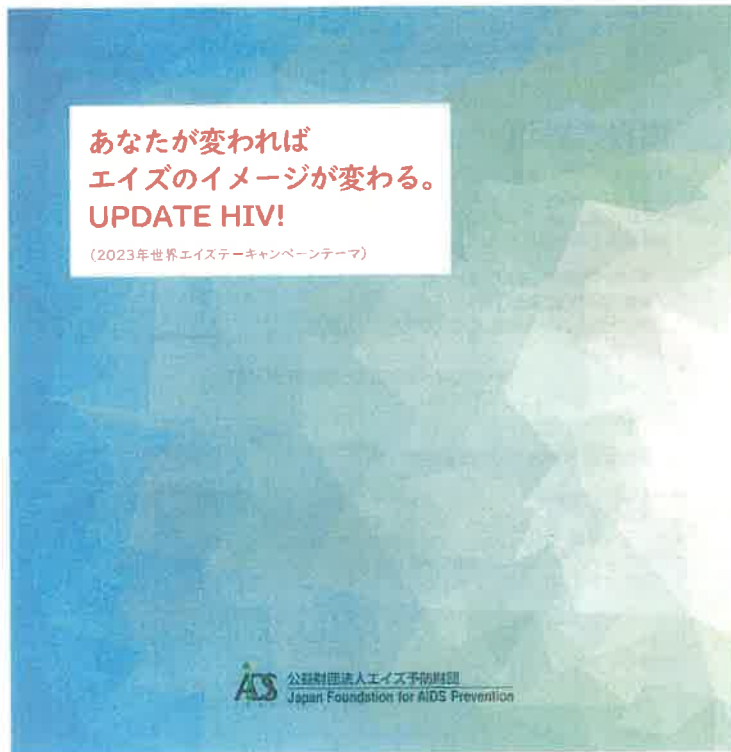
 厚生労働省  公益財団法人エイズ予防財団

エイズ予防情報ネット 検索  
<https://api-net.jfap.or.jp/>



(別紙3)

# HIV感染症・エイズ 世界エイズデー 2023



## エイズ流行40年

1981年アメリカで初めてエイズが報告されて以来40年が過ぎました。この間エイズは世界中に拡がり、多くの国々に深刻な影響を与えてきました。HIV（エイズの原因となるウイルス）の流行が始まってから、およそ8560万人がHIVに感染し、4040万人がエイズによって亡くなったとされています。

## 2030年エイズ終結に向けて

UNAIDS（国連合同エイズ計画）は2030年までにエイズの流行を終結させるという目標を掲げ、そしてそれは可能だと強調しています。今年度の世界エイズデー国内キャンペーンテーマは「あなたが変わればエイズのイメージが変わる。UPDATE HIV!」です。最新の、正しい知識を身につけ、差別・偏見を解消し、流行の終結につなげていきましょう。

## 世界の状況

2022年末現在、世界中で3900万人の人々がHIVとともに生きています。2022年1年間にHIVに感染した人は130万人で、15歳未満の子どもの13万人含まれています。エイズで亡くなった人は年間で63万人でした。世界では1日におよそ960人の若者（15～24歳）がHIVに感染しています。

- ★HIV陽性者:3900万人
- ★新規HIV感染者:130万人
- ★エイズによる死亡者:63万人

地域別HIV陽性者数(2022年末・推計)

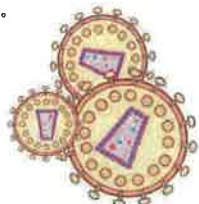


## エイズ(AIDS)とは

エイズは、**A**cquired **I**mmuno **D**eficiency **S**yndrome の頭文字を取ったもので、日本語では後天性免疫不全症候群と言います。エイズは、HIVというウイルスに感染し、免疫力が低下することによって発症する病気です。

## HIVとは

HIVとは、**H**uman **I**mmunodeficiency **V**irusの頭文字を取ったもので、ヒト免疫不全ウイルスのことです。免疫のしくみの中心であるヘルパーTリンパ球(CD4細胞)という白血球などに感染し、からだを病気から守っている免疫力を低下させていきます。



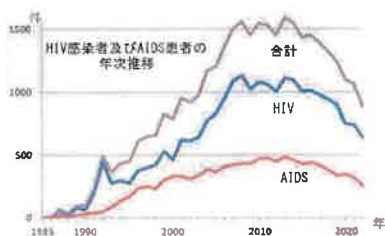
エイズは病気の名前、HIVはエイズを引き起こすウイルスの名前です。

HIVに感染してもすぐにエイズを発症するわけではありません。感染から数週間以内に風邪に似た症状が出るがありますが、その後は何年も症状のない状態が続きます。その間、免疫力は徐々に低下し、やがて本来なら自分の力で抑えることのできる病気を発症するようになってしまいます。抵抗力が落ちることで発症する疾患のうち、代表的な23の疾患を発症するとエイズ発症と診断されます。

## 日本の流行の状況

2022年の新規HIV感染者・エイズ患者報告数は884件で、6年続けて前の年を下回っています。感染経路としては、性的接触によるものが80%以上で、その多くが男性同性間の性的接触によるものです。新規報告者数のうちおよそ3割がエイズを発症して見つかっています。自身がHIVに感染していることを知らない人が、数多く存在するとも推定されています。新規報告数は減少しているとはいえ、まだまだ油断できない状況が続いています。

- ★新規HIV感染者:632件  
(2021年742件)
- ★新規エイズ患者:252件  
(2021年315件)
- ★累計報告数:34,421件



## HIVの感染経路

よく、「感染した人を刺した蚊に刺されても大丈夫ですか?」とか「軽いキスで感染する可能性はありますか?」など質問がありますが、このようなことで感染することはありません。

HIVの感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。HIVは主に3つの経路で感染します。

### 性行為による感染

性行為による感染は最も多い感染経路です。HIVは主に血液や精液、膈分泌液に多く含まれています。HIVは感染者の血液・精液・膈分泌液から、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口を通してうつります。性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV感染症・エイズ予防にとって有効な手段です。



### 血液を介しての感染

HIVが存在する血液の輸血や、覚せい剤などの“回し打ち”による注射器具の共用などによって感染します。日本では、現在、献血された血液は厳重な検査により最高水準の安全が確保されており、感染の可能性はきわめて低くなっています。

### 母親から赤ちゃんへの母子感染

母親がHIVに感染している場合、妊娠中や出産時に赤ちゃんに感染することがあります。母乳による感染の例もあります。日本では、お母さんがHIV感染症の治療薬を飲むことや母乳を与えないことで、赤ちゃんへの感染を1パーセント以下に抑えることができます。



HIV感染を予防するワクチンはまだありません。正しい知識を身につけて、常に感染を防ぐ方法を実行することが重要です。

## HIV感染を予防するには

HIV感染の最も多い感染経路は性行為です。  
HIV感染を防ぐためには、必ずコンドームを使用すること、  
また、パートナーに使用してもらうことが重要です。



お酒を飲み過ぎたり、薬物を使用したりしているときは、  
コンドームを最初から最後まで、正しく着けることが難しく、せっかくの予防も中途  
半端になってしまうので避けてください。

## 性感染症が増えています

性感染症 = STI (Sexually Transmitted Infection) は性行為で感染する病気の  
総称で、若者を中心に感染者が増加しています。具体的には、梅毒、淋病、性器  
クラミジア感染症など10種類以上あり、HIV感染症・エイズもSTIの一つです。  
STIに感染したら放置せず、パートナーと一緒に治療を受けるようにしてください。

## STIはHIV感染の可能性を高める

STIにかかると性器の粘膜が傷つくことがあるため、そこからHIVにも感染しやす  
くなります。これらを予防できるコンドームを、必ず使用するようにしましょう。

### ● 主な性感染症(STI)の特徴と症状

病名	特徴	症状	
		男性	女性
梅毒	皮膚や粘膜の小さな傷から 菌が侵入して繁殖し、や がて全身に広がり、さまざ まな症状を引き起こす。	感染後約3週間後、皮膚部位に大豆くらいの赤くてかた い、痛みのないしこりができる。	
性器クラミジア 感染症	男女ともに感染が多い。	尿道に軽い炎症を起こし、 排尿時にしみる。尿道から 薄い分泌液が少し出る。	不正子宮出血や軽い下腹部 痛、性交痛
淋菌感染症 (淋病)	最近とくに男性の間で感染 が広がっている。	尿まじりになり、強い痛みを 尿道口に感じる。尿道から 黄白色の分泌液が多量に 出る。	おりものの増加、腰痛、 頻尿
性器ヘルペス 感染症	女性に多く、感染するとウ イルスが潜伏し、発疹を繰 り返す。	陰茎包皮や亀頭などに複数 の小さな水疱が出る。数日 後に皸れ、痛みともなう 強い潰瘍となる。	外陰部に複数の水疱がで き、破れて潰瘍となる。強 い痛みによる排尿困難や発 熱をともなう。

## HIV検査

HIV感染に特徴的な症状はありません。  
HIVに感染したかどうかを調べるためにはHIV検査を受けるしかありません。

HIV検査は、エイズの原因ウイルスであるHIVに感染  
しているかどうかを調べる検査です。  
少量の血液(約5cc)を採って、血液の中にHIVに  
対する抗体があるかどうかを調べる「抗体検査」が  
一般的です。



## HIV検査を受ける時機

HIV感染初期には、検査では分からない時期があります。  
感染の有無をはっきり確認したいときは、感染の可能性のある機会から3ヵ月以上  
たってから検査を受けてください。

感染が非常に心配な場合は、感染の可能性のある機会から3ヵ月以内であっても、検  
査・相談を受けることで、ひとつの目安を得ることができます。ただし、もし陰性と  
出てもその結果を最終的に確認するためには、感染の可能性のある機会から3ヵ月以  
上たってから再受検が必要となります。

## HIV検査は保健所で受けられます

HIV検査は全国のほとんどの保健所で受けられます。しかも無料・匿名です。自分の  
住んでいる地域以外の保健所でも受けられます。  
HIV感染の心配が少しでもあれば、検査を受けてくだ  
さい。保健所ではHIV感染症・エイズや性感染症に  
関する相談もできます。



HIV検査は全国の保健所等で無料・匿名で受けられます。



HIV感染は献血では分かりません。検査目的の献血は、絶対にやめましょう。



## エイズの治療は？

HIV感染症の治療は作用の異なる3剤以上の抗HIV薬を併用して服薬します。いまのところ、からだの中のHIVを完全に取り除く治療法はありません。しかし、抗HIV療法の進歩によって、エイズを発症する前にHIV感染を知り、適切な治療を受ければ、エイズを発症することなく、感染前と変わらない日常生活を送ることができるようになりました。最近では1日1錠の服用ですむ薬や、2か月に1回の注射薬も開発されています。

早期に治療を始めることにより、他の人への感染を防ぐこともできます。また、HIV感染症の治療には社会保障制度があり、経済的負担が軽減されます。

## HIVはうつりません

効果的な抗HIV療法を受けて、血液中にウイルスが検出されないHIV陽性者からは、性行為によって他の人にHIVが感染することはありません。このことをU=U（検出できない）=Untransmittable（感染しない）といいます。U=Uは、「予防としての治療」という考え方をさらに進めた、エイズに関する差別や偏見をなくすためのメッセージです。



### 梅毒の感染増加が止まりません

近年、梅毒患者の報告数が増加。男性は20代～50代、女性は20代が突出して増えています。性的接触の後、いつもと違う症状が現れるなどして、梅毒に感染しているか不安なときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。梅毒の検査も保健所では無料。匿名で受けることができます。

## レッドリボン運動は30年を越えました

“レッドリボン（赤いリボン）”は、古くからヨーロッパに伝承される風習のひとつで、もともと病氣や事故で人生を全うできなかった人々への追悼の気持ちを表すものでした。

この“レッドリボン”がエイズのために使われ始めたのは、アメリカでエイズが社会的な問題となってきた1980年ごろのことです。このころ、演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティストたちにもHIV感染がひろがり、エイズで死亡する人々が増えていきました。そうした仲間たちに対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すため、“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。

この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展し、UNAIDS（国連合同エイズ計画）のシンボルマークにも採用されています。

レッドリボンは、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、HIVと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。

このレッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズのことをみんなで考えましょう。



## エイズ予防財団電話相談

0120-177-812 携帯電話からは 03-5259-1815

祝日を除く月～金、午前10時～午後1時、午後2時～5時

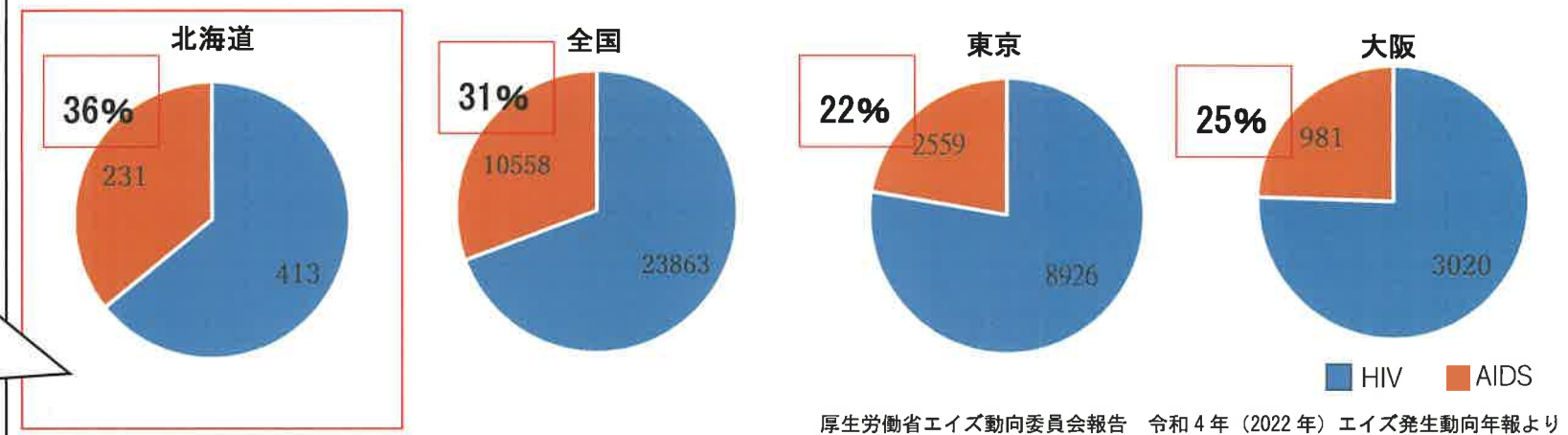
公益財団法人エイズ予防財団では、HIV感染症・エイズに関する正しい知識の普及啓発、NGO・NPOへの助成金交付などを行っています。当財団の事業活動にご理解とご賛同をいただき、ぜひご支援をお寄せくださるようお願い申し上げます。

発行 公益財団法人エイズ予防財団  
〒101-0064 東京都千代田区神田錦糸町2-7-1 TOWNビル3階 <http://www.jfep.or.jp/>

(別紙5)

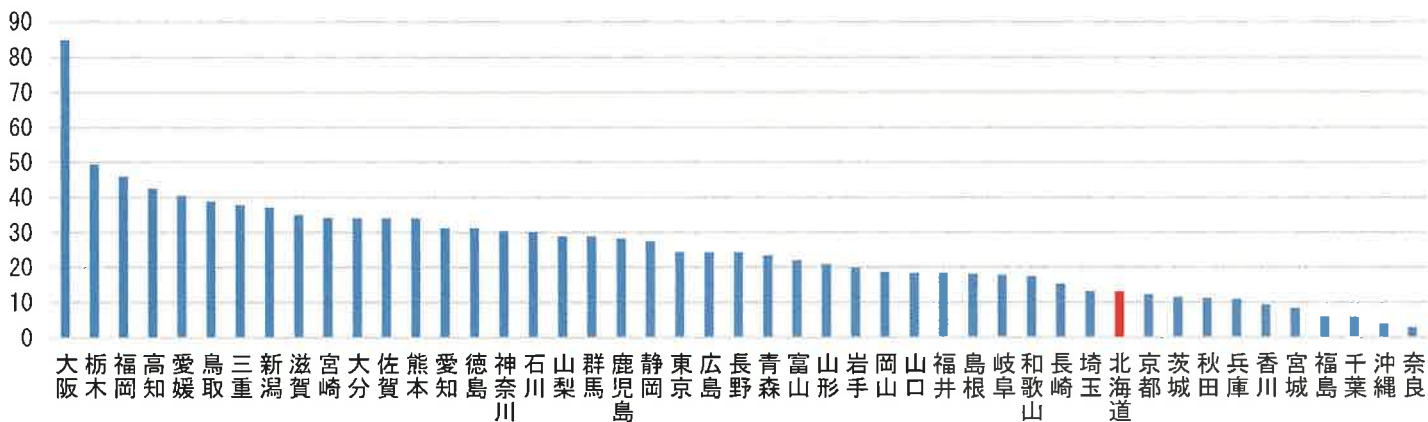
—北海道の現状と保健所の取り組み—

HIV感染者及びAIDS患者の累計



北海道は他都府県と比較し、HIV感染者及びAIDS患者の累計に占めるAIDS患者の割合が高い。

保健所等における人口10万人あたりの都道府県別HIV抗体検査数



○課題

北海道は全国と比較し、HIV感染者及びAIDS患者数の累計に占めるAIDS患者の割合が高く、さらにHIV抗体検査の受検率が低い現状があることから、感染の疑われる段階で検査につながらず、発症してから判明する、“いきなりエイズ”が多いことが考えられる。

厚生労働省エイズ動向委員会報告 令和3年保健所等におけるHIV抗体検査件数、総務省統計局 令和3年都道府県別推計人口(10月1日現在)より

◎普及啓発の重要性

エイズに対する偏見は未だ根付いており、検査や相談に踏み出せない人も多い。しかし、時代と共にエイズ治療は進歩しており、HIVに感染しても早期に発見し治療を受けることによってエイズの発症やその進行を遅らせることができる。そのため、地域住民が正しい知識と理解を持ち、差別・偏見の解消とともにエイズ蔓延を防止できるよう普及啓発が必要。

◎当所における取り組み

- ・ポスター、リーフレット等啓発資材の掲示
- ・管内市町村あて啓発資材の送付
- ・毎月1回の定例検査(要予約)及び検査時の保健指導
- ・電話相談(随時)